

2015年3月21日「世界ダウン症の日」記念イベントのご報告

# 「夢だなんて、思っていない。」

～不可能を可能にするパワーがあふれた 3/21 コンサート～

今年のJDS主催「世界ダウン症の日」記念イベント【STEP FORWARD TOGETHER みんなで一緒に前へ進んでいこう2015】は「夢だなんて、思っていない。」をテーマに、3月21日(土・祝)に東京都葛飾区の「かめありリリオホール」で開催。好天に恵まれ、会場は立ち見が出るほどの満員御礼。韓国からのお客様も招いて盛大なイベントとなりました。

## ※ドラムが鳴り響くオープニング

暗転した会場に突然ドラムの響き。JDS会員の中から公募で選ばれたパフォーマーのトップを飾ったのは、渡辺智広さん(山梨県)のドラム演奏。観客はあっという間に引き込まれました。続けて、柳川賢斗さん(埼玉県)のドラムが始まり、その熱いビートは、まさに「夢だなんて、思っていない。」というイベントの幕開けにふさわしいものでした。

## ※PR大使登場！ポスターモデルの伊藤さんとTシャツのイラストを描いた松田くん

今年もイベントの司会を快く引き受けてくださったフジテレビアナウンサーの笠井信輔さんの紹介で舞台に登場したのは、2015年世界ダウン症の日のPR大使の二人。啓発ポス

ターのモデル・都内の保育園で働く伊藤隆史さん(東京都)と、記念Tシャツにイラストを描いてくれた小学3年生の松田陽樹くん(東京都)。「ロックスター」を夢見る松田くんの描いたイラスト付きのTシャツは、黒と黄色の2種類。ゲストの奥山佳恵さんファミリーや、たちばなかおるさんも身に着けて、とても気に入ってくださった様子でした。

## ※親が思う「夢だなんて、思っていない。」

3歳になる美良生くんのママである、女優の奥山佳恵さん。小学3年生になる純太くんのママである、マンガ家のたちばな かおるさん。どちらも「ダウン症のある子の親」であることを公に隠すことなく、積極的に発言していらっしゃいます。

奥山さんは、ブログやメディア、3月に出版されたばかりの著書『生きてるだけで100点満点!』(ワニブックス)で、美良生くんやお兄ちゃんの空良くんとの“ありのまま”の生活を。たちばなさんは、『ユンタクんのゆっくり成長期』(2巻とも双葉社)や『ダウン症児の母親です! 毎日の生活と支援、こうなってる』(講談社)など著書多数。



オープニングを飾ったドラムス



イラストの松田くんとポスターの伊藤さん



奥山さんとたちばなさんをお迎えして

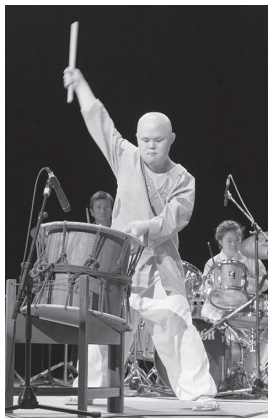
このお二人に、JDSの玉井代表理事（ダウン症のある息子さんは33歳）を交えてのクロストークショーは、今回の目玉の一つ。3人のトークでは、それぞれの家庭での微笑ましいエピソードや、きょうだい・家族の思いなどが、あふれんばかりに飛び出しました。

たちばなさんも奥山さんも、「障害児を育てているという意識ではなく、私たちがしていることは『子育て』。『ダウン症の○○くん』ではなく、たまたま授かった子にダウン症があっただけ」と語ります。

●奥山さん：「まだ公にする前に、兄の空良が、『お母さんはテレビに出るお仕事なんだから、みんなの前で（ダウン症のある子は）こんなにかわいいよって言わなきゃだめじゃない』と言ってくれたんです。私は美良生くんには、とにかく自立してほしいと願っています。」

●たちばなさん：「純太には、打ち込める何かを見つけてほしい。できればそれを一緒に楽しめる友人を見つけて、Suicaを持ってあちこち行ったりなど、当たり前の日々を楽しんでほしい——それぞれが「夢だなんて思っていない」願いを語っていただきました。」

### ❁ スペシャルコンサート：日韓合同演奏と JDS会員によるパフォーマンス



会場を魅了した日韓合同演奏

イベントもいよいよクライマックス。まずは、「日韓交流50周年記念 音楽で手をつなごうコンサート」。障害のある日韓のパフォーマーが揃い、迫力のある演奏を聴かせてくれました（6ページに  
関連記事を掲載）。

### フラメンコ：豊田 紘実さん（香川県）

パフォーマーの後半トップバッターの豊田さんは、先生のパルマ（手拍子）とギターの演奏に合わせ、華麗なフラメンコとステップを感情たっぷりに舞い、客席を魅了しました。

### ダンス：ジュピター（千葉県）

ダウン症のある子ときょうだい・家族で構成されたダンスチーム「ジュピター」。元気いっぱい舞台から飛び出たそなたびっこダンサーに、ハラハラドキドキでした。

### ピアノ+ダンス：MAYU&HIRO（神奈川県）

MAYUさんが弾く、映画「ひまわり」のテーマ曲の切ない調べに合わせ、HIROさんと先生が感情豊かに即興のダンスを表現。会場がうっとりとした雰囲気になりました。

### コント：ドリームエナジープロジェクト（神奈川県）

舞台の幕間を大いに沸かせてくれたコント軍団は、知的に障害のある方が所属する「ドリームエナジープロジェクト」のみなさん。一発ギャグの連発に会場は大盛り上がり！

### エレクトーン：弥久保 直樹さん（新潟県）

機材トラブルにも動じず、堂々のパフォーマンスで、会場を一つにしてくれた弥久保さん。弾けるような笑顔で2曲を披露した後は、本日の出演者全員が舞台に上がり、弥久保さんの演奏で「世界に一つだけの花」を、全員で歌い、賑やかにフィナーレを迎えました。

【広報出版委員：山本 昌子】



参加者全員がそろって感動のフィナーレ！

## 音楽で心がつながった 日韓合同演奏

ダウン症のあるお子さんをもつマリimbaの指導者とダウン症のある演奏者という関係が発端で日韓合同演奏が実現しました。8月に韓国公演も決定！



Photo by ERI TAKAHASHI <表紙・p4～6>

### 【韓国のメンバーの感想】

◆林 有珍(イム・ユジン)：ピアノ、フルート  
「日本の友達の素晴らしいリズム感や打楽器演奏に驚きました。おかげでエキサイティングな日本の民謡“ソーラン節”と韓国の伝統音楽“アリラン”の演奏をしながら、文化的に深く共鳴し合い素敵なハーモニーを生み出したことは、私にとって幸せなことでした。」

◆李 多英(イ・ターヨン)：カヤグム  
「国も違うし、初めて皆さんと演奏することで、どうなるかドキドキもありましたが、皆が音楽で一つになって美しく調和し、その感動的な演奏は国境を越えました。また韓国で再びお会いし公演をすることが楽しみです。」

◆金 由奈(キム・ユナ)：ドラム  
「今回の公演のおかげで、私は自信を持つことができるようになりました。そして、意思を強く持つことを学びました。私たちを信じて助けてくれた方々に、感謝の気持ちをお伝えします。社会の一員として、私のような障害を持っている人たちが幸せになる世の中に、早くなりますようお願いしています。」

◆鄭 然宰(ジョン・ヨンジェ)：テノール  
「私は個人的に、“もっと練習をよくしていれば”という物足りなさがありました。演奏を共にした日本の友達とさらに発展した姿で、韓国で再会して演奏することを今から楽しみにしています。」

◆金 志姫(キム・ジヒ)：ギター

「私たちのような知的障害者への偏見なしに、音楽で一つになって素敵なアンサンブルができ嬉しかったです。今後、機会があれば韓日親善交流音楽会にたくさん参加することを希望します。」

### 【日本のメンバーの感想】

◆武智 和彦：マリimba

「練習は疲れたけれど、本番はバッチリ！みんなと楽しくできてうれしかったです。」

◆高橋 伸明：パーカッション

「ソロの掛け合いと最後の“はい！”の掛け声を合わせるのが、難しかったです。でも心一つにできて、とってもうれしいです！！」

◆関口 滉平：太鼓

「みんなで“ソーラン節”の演奏ができて、とても楽しかったです。ソロも成功して良かったです。」

◆安田 卓也：掛け声

「“ソーラン節”とても楽しかったです。緊張しましたが、掛け声もうまくできました。また会いましょうね。」



### 「共に開こう 新たな未来を」

今回の合同演奏を発展させる形で8月に韓国の2会場で開催される「音楽で手をつなごうコンサート～障がいのある仲間とともに～」が、外務省から日韓国交正常化50周年記念事業として認定を受けました！！